

# 紅葉まつふ

高江会女部吉野山支部

## 歌碑・句碑



万葉歌碑は説人しらす  
吉野にて作る神さぶら  
み吉野の心宿みを見ればかなし

如意輪寺の境内  
後醍醐天皇陵に詣りて  
楠木正行の本堂の扉に  
「かゝらじとて思へば  
砕ろなきかすに入るをぞ  
ととむる」と碑せの歌を  
残した。中世以来多くの文人  
を誘ひ訪れて多く作  
を刻してあり、境内には句碑や歌碑が建たされている

御廟を建て  
芭蕉  
思は  
何を志すか  
石は

竹林院の境内  
西行法師の歌碑  
吉野山、そのしるしの  
道はつてまた見ぬがたの  
心をたづねむ

吉野山をくらくらく目にまうて来て  
おぼしむ心人忘らぬやも 道空  
よしの山奥は知らぬ人も  
見ゆるのきは梅なりけり 八田知紀

あふ坊に一夜をかりて  
庭打ちて我にのぞきや坊のま 芭蕉  
目つむれハ蔵を種現 後の月 香歌

吉野朝宮跡  
「南朝の帝」歌碑  
見し所に花も咲ぬと都にていつか吉野の合を聞かまし 後鳥羽天皇  
わが宿と頼ますのち吉野山 花になれぬる舎いよとせ 長慶天皇  
吉野山に時を待たせにけり都のつとに今やかざさん 後村上天皇  
袖のす天津女も思ひ出すや吉野の宮の首語り 後醍醐天皇

「吉野天考」句碑  
歌者よも 軍兵にかなし しの山 東在坊  
「良寛和尚の吉野紀行の碑など」

「松尾芭蕉」句碑  
吉野にて さくら見せふぞ 檜木空  
花ざかり山は日比の朝ばら希 芭蕉翁

昭憲皇太后御歌  
吉野山御陵近くなりぬらむ  
散りくも衣もうちらめりなる

後醍醐天皇の歌碑  
後醍醐天皇御製  
石は  
よしの  
まぐらのも  
よしの  
よしの  
よしの

万葉歌碑は天武天皇  
吉野の宮に幸しし時の御製歌  
よき人のしるしと見てよしと言し  
吉野よく見よよき人よく見

淑人乃 文武天皇  
良跡を良而  
好常言師  
吉野吉見與  
良人四末三  
房書